

平成30年度 学校自己評価システムシート (県立朝霞西高等学校)

目指す学校像	伸びる朝西、伸ばす朝西、感動と達成感あふれる学校をめざします。
--------	---------------------------------

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 伸ばす授業、鍛える授業を進め、生徒の学力を高める。 2 高い進路目標を持ち、現実に向けて全力を尽くす。 3 規律を順守し、部活動や学校行事に全力を尽くす。 4 教育活動を広く広報し、本校への理解と信頼を高める。
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	7名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	7名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標				年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策
1	<ul style="list-style-type: none"> 多くの生徒が授業や与えられた課題等に真面目に取り組んでいるが、自ら進んで学習する姿勢は不十分である。 基礎学力の充実を図るとともに、生徒自らより高い目標を設定し、意欲的に学習に取り組ませることが課題。 	<ol style="list-style-type: none"> ①学力の向上、学習に対する意欲の向上を目指し、伸ばす授業、魅力ある授業を展開する。 ②学習内容の理解をより深めるため、また進路希望実現のため、家庭学習時間(自己学習時間)を増やす。 	<ol style="list-style-type: none"> ①年次研修の研究授業や授業研究週間(年2回)の機会を活かし、課題発見や授業改善について、各教科ごとに検討を進める。 ①次年度以降の教育課程がより、効果が上がる内容となるよう点検を開始する。 ②朝勉の奨励、学校内での自己学習場所の確保など、学年等と連携して自己学習を奨励する。 ②学年と連携し、課外補習、長期休業中の補習の講座を数多く設定する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①年次研修者の研究協議会や授業研究週間での授業相互見学等を活かし、教科ごとの工夫改善が進み、授業理解度が高まったか。(授業理解度8割以上) ①教育課程検討委員会または適切な組織で点検・検討を開始できたか。 ②学年等での学習時間の増加に繋げる方策がとれ、自己学習時間が平日2時間以上・休日3時間以上の生徒の割合が増加したか。 ②学力向上、進路希望実現に向けた補習が設定されているか。(前年比:講座数・参加数) 	<p>教員の授業改善への意識が高まり、生徒の学力向上や学習への意欲向上が進んだ。</p> <p>①授業評価アンケートを2回実施。週末課題等への取り組み96%、授業の理解度81%で、生徒の授業理解度が高まった。</p> <p>①教育課程検討委員会内の作業部会を5回実施し、検討が進んでいる。</p> <p>②教科・学年の連携により自己学習時間確保の体制が整った。前年度と比べて平日2時間以上の割合は微増(9.0%→10.3%)、休日3時間以上の割合は微減(11.7%→10.7%)。</p> <p>②学年の枠を超えた補習を設定(単元ごとの補習など)するなど、他学年と連携しながら補習を行った。補習の講座数は昨年度より増加した(22→23)が、参加者延べ人数は減少した(533→527)。</p>	<p>A</p> <p>①授業改善に向けて、研究授業や研究協議会での意見交換等を積極的に進めてきたが、この取組は継続する。</p> <p>B</p> <p>②生徒の進路希望実現への意識が高められるよう、学年・教科・進路指導部との情報共有を強化する。</p> <p>②学年・教科が進路指導部と連携をとりながら、自ら学ぼうとする意欲を伸ばす方策について、週末課題等の見直しなど検討を重ねていく。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> 多様な進路希望に対応するため、きめ細やかな指導を行っている。 将来を見据えた堅実な進路選択の促しと、より高い目標への挑戦に向けた意欲の喚起、行動への促しが課題。 	<ol style="list-style-type: none"> ①進路意識の向上を促し、個々の成長に繋がる具体的な目標設定や選択を支援する。 ②第一志望に向けた自発的継続的な行動を促し実現できる学力の育成を行う。 	<ol style="list-style-type: none"> ①三年間を見通した観点から時機を得た進路行事(進路LHR、ガイダンス、面談)を企画・実施する。 ②各種研修会を通じ、情報の共有、生徒の現状を踏まえた効果的な学習指導を検討する。 ②学年や保護者と連携し、学習意欲の喚起や学習習慣の定着を図る。 ②模試の受験を勧め、結果の振り返り等有効活用を促し、データを面談などで活用する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①進路についての的確な情報を収集するために外部研修回数及び来客対応回数が昨年より増加したか。 ①進路行事の振り返りを実施し、次年度へ向けての課題と対策を挙げられたか ②外部講師を招いての教員対象の情報分析会や生徒・保護者を対象とした受験ガイダンスを昨年の反省を踏まえて実施できたか。 ②学年通信や週報による情報発信(3回以上)をし、定期考査・長期休業前の学習計画を生徒が作成したか。 ②ステップアップの視聴の促しや、到達度テストの結果の活用を可視化してできたか。 ②個々の進路希望に沿った模試結果(振り返りを含む)を面談時に活用できたか。 	<p>進路指導の工夫・改善による様々な取り組みにより、生徒の進路意識の向上の効果が表れてきた。</p> <p>①外部研修は21回から28回に増加、来客対応回数は350回から331回と減少した。</p> <p>①進路行事実施後の部会で必ず振り返りを行い、来年度に向けて課題を明らかにし、その対策を検討した。</p> <p>②外部講師による分析会は、計画的に教員対象に5回実施し、受験ガイダンスは学年生徒全体対象4回、希望生徒対象6回、保護者対象1回を実施した。</p> <p>②学年通信を1年3回、2年5回、3年6回、週報でも勉強時間について1回情報発信を行った。また定期考査・長期休業前に学習計画を全学年生徒全員に作成・提出させた。</p> <p>②ステップアップの視聴割合を数値化し、1学年通信に掲載し、視聴時間ベスト10の表彰も行った。</p> <p>②二者面談前にステップアップ及び到達度テスト結果を、三者面談前には河合塾模試の結果を面談資料として配布し、進路選択に活用できた。</p>	<p>A</p> <p>①新テストに向けた研修に積極的に参加し情報共有に努めたが、参加教員の割合が少なく、教員間の温度差があった。進路指導部以外の教員にも参加してもらえるよう、研修の案内を工夫し最新情報の共有を図っていく。</p> <p>①引き続き入試制度が変わることによる行事の在り方や見直しを生徒の実態に合わせて検討する。</p> <p>②保護者アンケートで進路情報があまり届いていないとの回答が39%であることから、ホームページに最新情報を載せていくなどの新たな発信手段を検討する。</p> <p>②紙ベースでは見えない模試結果分析としてベネッセのコンパスや河合塾のパンダシステムを活用するべく、研修や使う機会を設けていく。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣や規範意識の向上などいずれもこの数年間で飛躍的に改善されているが「社会に通用する人間の育成」をテーマに全教職員が協力して生徒指導を行い、社会と同じ基準を求めていく。 生徒の自主性や自律性を育て、生徒達が強い愛校心を持てるように部活動や学校行事を盛り上げていく。 	<ol style="list-style-type: none"> ①生徒指導に関する教職員の共通理解を深め、生徒の規範意識を育み成果をあげる。 ②積極的な生徒指導を通じて部活動や生徒会行事をさらに活性化させ、生徒の活躍の場を増やす。 	<ol style="list-style-type: none"> ①学年単位、学校全体の生徒指導マニュアルについて現状をふまえて検討し作成する。 ①時間を守らせる指導の一環として、8時35分チャイム着席指導を継続的(開始から3年目)に行う。 ②部活動の活性化を促す。 ②部活や学校行事に全力で取り組み、生徒の学校生活への充実感や満足度を高めることにより、愛校心を持たせる。 	<ol style="list-style-type: none"> ①教職員の生徒指導に関する共通理解を深め組織的な取り組みをする体制を作れたか。 ①各学年と生徒指導部が連携した遅刻指導システムを確立し、35分着席していない生徒数を減らし、遅刻数を500以下に減らせたか。 ②部活動加入率が前年度より増加したか。 ②しいのき祭入場者数3000名以上を達成することができたか。 ②アンケートで学校生活への満足度が昨年度より上昇したか。 	<p>全教職員の共通理解による組織的な生徒指導により、生徒の規範意識が向上するとともに、安全・安心かつ活発な学校づくりが進んでいる。</p> <p>①マニュアルを活用することにより生徒指導に関する共通理解が深まり、組織的な取り組みができる体制が作れた。</p> <p>①35分着席指導を定着できた。遅刻数も昨年度よりも11%減少した。(2学期時点:385名⇒348名)</p> <p>②部活動加入率が増加した。(71.8%→80.8%)</p> <p>②しいのき祭入場者数は2638名だったが、内容が充実していて盛り上がりを見せた。</p> <p>②保護者のアンケートでは昨年度に比較して、「生徒指導の内容が充実している」の項目で「あてはまる」が19%から34%へ、「部活指導や学校行事の取り組みは充実している」の項目で「あてはまる」が28%から35%へ増加したことから学校生活に関する満足度の増加がうかがえる。</p>	<p>A</p> <p>基本的な生活習慣が身につけてきた生徒は増えてきている。今後は生徒ひとりひとりが自主的・自発的に物事に取り組めるように生徒の成長を促していく。</p> <p>A</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> HP、週報、学校案内を通じて生徒・保護者・地域の中学校などに本校の活動内容を広報している。また、朝西見学会を年4回実施している。それらの内容を見直しつつ実施していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 本校の教育活動や活動の成果を広く広報し各方面の本校の理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度準備したNetCommonsをHPに導入し、多くの先生方に直接関わられるよう、またより早い情報発信を行えるような環境を整備、運用開始する。 ・週報の内容をさらに見直し、内容の充実と編集の効率化を図る。 ・朝西見学会の内容を見直すとともに、新たな取り組みとして部活動体験に特化した回を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・HPの環境を整備し、適切に運用できたか。 ・週報作成の効率化と内容の充実が達成できたか。 ・朝西見学会の参加者アンケートで、満足度60%以上を達成できたか。 	<p>広報活動の様々な工夫により、生徒募集に一定の成果が出ている。</p> <p>・HPはNetCommonsの運用が開始され、多くの教員による情報発信ができた。</p> <p>・先を見通し計画的に原稿依頼をすることで週報作成の効率化が図れた。また、各部活動の活躍もあり、週報は充実した内容とすることができた。</p> <p>・4回の朝西見学会のうち第2回(8月)に部活動体験を導入。383名の部活動体験と併せて525名がミニ説明会に参加し盛況だった。また、アンケートによる満足度は全ての回で96%を超えた。</p>	<p>A</p> <p>・HPは迅速な更新が可能になり、今後もその特性を生かして運用していく。</p> <p>・週報は計画的に発行することができた。さらに内容の充実を進めるため、新たな内容の追加も検討していく。</p> <p>・見学会の内容をさらに充実させ、日程についても再考する。</p>

学校関係者評価	実施日 平成31年2月12日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善に向けて、教科内だけでなく、他教科の授業も含めた学び合う体制は評価できる。引き続き、映像やICTなどを活用し、授業改善に取り組んでほしい。 ・自己学習時間の確保には、生徒に学力を高める必要性を理解させることが重要と考える。そのために、10年後、20年後の社会にも対応できる人材(英語力を中心としたコミュニケーション能力、IoTの時代に対応するプログラミング能力などを身につけた人)が求められていることを、生徒に認識させることを望みます。 ・英語4技能を測る入試に対応するために、新テスト対策チームを作り、英語外部試験のスコア取得促進など、対策が決定していることは評価できる。 ・大学入試の結果について、第1希望に入学している生徒の割合や状況について分析し、今後の進路指導に生かしていただきたい。 ・進路指導では、小論文指導や面接指導など、生徒一人一人にきめ細かく丁寧な指導がされていた。今後は学校としての方針を打ち出し、指導が行きわたるよう工夫を凝らしてほしい。 ・生徒の特性を踏まえた進路指導を今後も継続し、充実させてもらいたい。 ・進路情報が家庭に十分伝わるよう発信方法を工夫することを期待します。
	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻者が昨年度も少なかったが、今年度は更に減少している。生徒の規範意識が向上していることが評価できる。 ・部活動の活性化や部活動指導の方向性が、現在課題となっているが、学校として適切な対応を望みます。 ・部活動や学校行事に対する満足度が上がったことは、学校生活への満足度が上がったこととして高く評価できる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・HPがNetCommonsになり、情報発信が改善されたのは良い。しかし、その点を保護者があまり認識していないので、周知するための工夫が必要である。 ・部活動体験は、中学生にとって非常に良い取組であった。今後も更なる発展を期待します。

